



陸前小泉駅 (りくぜんこいずみえき) は、宮城県気仙沼市本吉町下宿にある、東日本旅客鉄道 (JR 東日本) 気仙沼線のえきである。盛土上に単式ホーム1面1線を有する地上駅であった。石巻駅管理の無人駅。東日本大震災による津波にて当駅ホームは築堤ごと流され消失した。(Wikipedia より)

BRTとは、バス・ラビット・トランジット (Bus Rapid Transit) の略で、接続バス、PIPS (公共車両優先システム)、バスレーン等を組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステムです。

気仙沼向洋高校
地震が発生したとき授業は午前で終わっており、部活動や追試験を受ける生徒が残っていました。長い揺れに続き、防災無線で津波警報が流れるなか、教職員は手分けして、生徒の点呼をとった後、高台に避難誘導しました。教職員は重要書類を校舎の4階に運ぶ作業を終えて、南校舎の屋上から海の方を見ると津波が「ゴーゴー」という音とともに襲ってきました。水位はどんどん上がり、校舎の3階の高さまで到達しました。

唐桑御殿 遠洋マグロ漁は1航海が10ヶ月。漁師たちは、つぎの航海まで疲れたからだを休め短い家族だんらんを久しぶりに楽しめます。そうしたひとときを受け止めてくれるのが唐桑御殿。漁師たちは、自分に贈る最高の勲章として、競い合うように豪壮な家を立ててきました。赤瓦、黒瓦を乗せた勇壮な家々は、大きさ、形、坪単価のいずれも他を圧倒し海の生活と共に唐桑ならではの景観を形づくっています。

気仙沼海鮮市場 海の家 シャークミュージアム
海の魅力が結集する気仙沼のシンボルスポット
気仙沼の魅力を取りそろえ、地元有名店が勢揃い
2F 気仙沼復興シアター 災害から復興、そして未来への思いを15分程度のショートムービーで紹介。市民の目からみた震災と復興を、そして未来を描きます。

気仙沼ってどんなところ？

水産業と観光が中心で、特に、マグロ、カツオ、サンマは、全国有数の水揚げ高を誇る。フカヒレの産地としても有名であり、水揚げ量は日本一である。市中心部には水産加工団地が発達している。牡蠣やホタテの養殖でも知られている。
特定第三種漁港の気仙沼漁港を始めとした市内の各漁港は、三陸海岸での沿岸漁業・養殖漁業、世界三大漁場「三陸沖」での沖合漁業、さらに世界の海を対象にした遠洋漁業の基地として機能し、関連する造船から水産加工までの幅広い水産業が立地する。
名物の1つである「気仙沼ホルモン」はこのような人々の広域な交流と産業背景から生み出されたものとして知られている。(Wikipedia より)

南三陸防災対策庁舎跡
津波が目前まで迫る中、若き女性職員が最後まで避難を呼びかけた場所として有名になった南三陸町の防災対策庁舎。3階建ての庁舎の屋上から更に2mも上回る巨大な津波に襲われ、鉄骨を残すだけの無残な姿になりました。屋上に避難した20名の職員の尊い命が失われてしまいました。